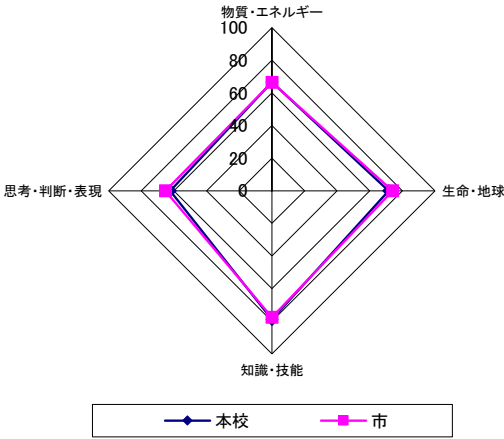


宇都宮市立御幸小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	66.6	66.5	66.3
	生命・地球	71.6	74.0	72.6
観点別	知識・技能	78.9	77.6	78.2
	思考・判断・表現	62.3	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は66.6%で、市平均とほぼ同じ。 ○「物のとけ方」の単元では、「メスシリンダーで水を正しくはかりとり、正しいろ過の操作方法を選ぶ」問題で平均正答率が市平均を16.9ポイント上回った。 ●「電流のはたらき」の単元では、「電磁石の性質をもとに、おもちゃの車が走るように改善する方法を記述する」問題で平均正答率が市平均を11.8ポイント下回った。	・正しい実験結果を選択したり、実験技能に関する問題の正答率は高かったが、実験操作の誤りを説明する問題や改善する方法を記述する内容の正答率が低い。基本的な実験の技能に関しては、学習中の確実な習得を図るため、今後も一人一人が器具を操作する機会を確保していく。その後、共通の体験をもとに話し合い、実験を行う意味や目的、結果から導き出される考察などを考える時間を共有するなど、学びを深める活動を取り入れていく。
生命・地球	平均正答率は71.6%で、市平均よりも3.4ポイント低い。 ○「植物のつくりとはたらき」の単元では、「くきを縦に切ったときの断面の様子を選ぶ」問題で平均正答率が市平均を14.8ポイント上回った。 ●「動物のからだのつくりとはたらき」の単元では、「だ液によって、でんぷんがどのように変化するかを推測する」問題で平均正答率が市平均を10.8ポイント下回った。	・ペアやグループで活動し、自分で実験して確かめたものに関する問題の正答率が高い。全員が実験や観察に取り組めるように活動を設定し、学びを深めていく。 ・物質・エネルギー領域と同様、対照実験を行う理由やその条件などを考える活動、実験結果を基にした現象の考察や理解をグループで考える活動を設けることで、さらに学びが深まるようにしていきたい。